

言葉をやり取りしている中で、言葉にできない部分が共鳴し合う。幸せなことに私は、そういう体験をさせてくれる幾人かの通訳と出会った。単なる仕事仲間とも知り合いとも違う。彼女たちは、
「あなたの言いたいことはよく分かりますよ」
という無言の目配せを私に送ってくれる、言葉の（4）なのだ。

小川洋子「カラーひよこことコーヒー豆」より

問一 線①～⑤の漢字は読みを答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 線a、bの言葉の意味をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|--|--|
| <p>a 話の腰を折る</p> <p>ア 相手の話を全く聞かず、話し続ける</p> <p>イ 口をはさんで、相手の話をさえぎる</p> <p>ウ 話している相手に、うまく合わせる</p> <p>エ 相手の話を否定し、悪く言う</p> | <p>b かけがえのない</p> <p>ア これ以上考えられない</p> <p>イ めずらしい</p> <p>ウ まったく知らない</p> <p>エ かわりになるものがない</p> |
|--|--|

問三 (A)、(B)に共通してあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ア しかし イ だから ウ つまり エ また

問四 (1)～(3)にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません)

- ア せつせと イ どきつと ウ いろいろと エ わくわくと オ きちんと

問五 線(1)の「同じ反省」とはどんなことを指していますか。次から選んで記号で答えなさい。

- ア お喋りが過ぎることを相手に知られないようにしようということ。
 イ べらべらと余計なことを喋らないように気をつけていこうということ。
 ウ 自分の言いたいことを分かってもらおうと努力しようということ。
 エ 今後、人前でお喋りをすることがないようにしようということ。

問六 線(2)の「そういうわけにもいかず」とありますが、どういうことをするわけにはいかないと言っているのですか。次からあてはまらないものを一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 通訳以外の仕事をしているのかを質問すること。
 イ 夢は何語で見るのかを質問すること。
 ウ 通訳に必要な能力を身につける方法を質問すること。
 エ 私の日本語は訳しにくいかという質問すること。

問七 線(3)の「不可能を可能にする」とはどんなことを表していますか。解答用紙に合うように、文中から二十五字以内で抜き出して答えなさい。

問八 線(4)から主語と述語にあたる文節をそれぞれ次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 幸せな イ ことに ウ 私は エ そういう オ 体験を カ させて キ くれる ク 幾人かの ケ 通訳と コ 出会った。

問九 (4)にあてはまる言葉を文中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

【二】次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

金亀子擲つ闇の深さかな

高浜虚子

この句の季語は「金亀子」、かなぶんの仲間（ 1 ）の季語です。その下の「擲つ」という動詞は、強く投げるという意味です。まずは、この句がどのような場面を詠んだものかを考えてみましょう。

ヒントは「金亀子」という昆虫の習性にあります。⁽¹⁾ かなぶんなどの甲虫は、夜になると灯りを目掛けて飛んできます。現代の都会ではちよつと考えられないかもしれませんが、昔はエアコンなどもなく窓を開け放っていましたから、家の中にがねむしが飛び込んでしまつたのでしょうか。作者はそれを捕まえて、窓の外へ強く放り投げた（＝擲つた）のです。さあ、その後このがねむしはどうなつたのでしょうか。

それを考える上でポイントになるのが、後半の「闇の深さかな」という部分です。もし、放り投げたがねむしが隣の家の壁にあたつて鈍い音を立てたりしたら、「闇の深さ」という把握にはならなかつたでしょう。（ A ）、このがねむしは真つ暗な闇の中へすうつと音も立ずに消えていったのではないのでしょうか。そこで気付いた夏の夜の「 2 」が、この句における作者の感動の中心なのです。それを表しているのが、句末にオカれた「かな」という切字の働きです。

（中略）

いくたびも雪の深さをたづねけり

正岡子規

この句の季語は「雪」、言うまでもなく（ 3 ）の季語です。まずは、これまでのようにこの句の場面を想像してみてください。

「いくたびも」は漢字で書けば「幾度も」ということです。作者は何度も何度も雪の深さを「たづね」（＝尋ね）たのです。今どのくらい雪が積もつたかを、なぜ自分で外に出て確かめなかつたのでしょうか。誰かに尋ねるくらいなら、自分で確かめた方が早いはずですよ。⁽³⁾ そうしなかつたのは、自分で確かめられないジジョウがあつたからだということにレンソウが働くことが、この句の鑑賞上のポイントです。

作者は怪我をしていて歩けなかつたのではないか、（ B ）病気で寝ていたのではないか。そんな想像が働いた人は大正解です。実は、正岡子規は、晩年、脊椎カリエスという結核性の重い病気を患つて、何年も寝たきりの生活をしていました。子規の看病は、ずっとお母さんと妹がしていました。そんな寝たきりの生活の中でも、子規は俳句への情熱を失うことはありませんでした。雪が降れば、硝子戸越しにそれを見ながら、どのくらい積もつたかが気になつて仕方なかつたのでしょうか。家族を呼んでは、何度も繰り返し雪の深さを尋ねたのです。⁽⁴⁾ 尋ねずにはいられないその気持ちこそが、この句における感動の中心になっています。

佐藤郁良「俳句を楽しむ」より

注 把握 しっかりとした理解

晩年 一生の終わりに近い時期

問一 線①～⑤の漢字は読みを答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問二（ 1 ）（ 3 ）に入る季節を漢字一字でそれぞれ入れなさい。

問三（ A ）（ B ）にあてはまる言葉を次から選んで記号で答えなさい。

ア しかし イ あるいは ウ おそらく エ だから オ つまり

問四 線(1)「昆虫の習性」とは、どんな習性ですか。「習性」に続くように、文中の言葉を使って答えなさい。

問五 — 線(2)「それ」は、何を指していますか。文中から抜き出して答えなさい。

問六 (2) にあてはまる言葉を文中から四字で抜き出しなさい。

問七 — 線(3)「そうしなかった」とは、なにをどうしなかったことを表していますか。わかりやすく答えなさい。

問八 — 線(4)の「尋ねずにはいられないその気持ち」とは、どんなことを表していますか。次から選んで記号で答えなさい。

ア 外に出ることを妹たちに止められても、自分の意志を曲げたくない気持ち。

イ 俳句への情熱で、雪が降り積もった様子をどうしても知りたいという気持ち。

ウ 俳句への情熱を失っても、やはり雪の美しさには心がひかれるという気持ち。

エ 病気による苦しみを、雪の降る風景を見ることによって忘れてしまいたいという気持ち。

【三】次のそれぞれの三つの漢字に共通してあてはめることで、漢字を作ることができる部首を後から選んで、記号で答えなさい。

(例) 青 生 布 解答Ⅱイ(りっしんべんⅡ情 性 怖)

1 吾 寸 正 2 首 刀 反 3 早 化 右

4 主 走 寺 5 由 合 寺

ア ごんべん イ つきへん ウ きへん エ にんべん オ ぎょうにんべん

カ たけかんむり キ くさかんむり ク しんにゆう(しんにょう)

【四】敬語には、尊敬語、謙讓語、丁寧語の三つがあります。次の1～5の — 線の言葉はそのうちのどれですか。後から選んで記号で答えなさい。

1 今日は天気です。 2 すぐに参ります。 3 お茶を召し上がってください。

4 ありがとうございます。 5 ご注文をうかがいます。

ア 尊敬語 イ 謙讓語 ウ 丁寧語

【五】次の人物の代表的作品名を後から選んで記号で答えなさい。

1 三島由紀夫 2 兼好法師 3 清少納言 4 太宰治 5 松尾芭蕉

ア おくの細道 イ 走れメロス ウ 潮騒 エ 舞姫 オ 徒然草

カ 枕草子 キ 源氏物語 ク 方丈記

国語解答

小計10点

2点×5

小計10点

2点×5

1	ウ	2	オ	3	カ	4	イ	5	ア
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

1	ウ	2	イ	3	ア	4	ウ	5	イ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

1	ア	2	ク	3	キ	4	オ	5	カ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

小計32点

2点×5

問一	①	はな	って	②	置	かれた	③	たし	かめ	④	事情	⑤	連	想
----	---	----	----	---	---	-----	---	----	----	---	----	---	---	---

問二	1	夏	3	冬	問三	A	ウ	B	イ
----	---	---	---	---	----	---	---	---	---

問四	3点	夜になると灯を目がけて飛んでくるとい	う	習性
----	----	--------------------	---	----

問五	2点	金亀子(こがねむし)	問六	3点	闇	の	深	さ
----	----	------------	----	----	---	---	---	---

問七	3点	雪の深さを自分の目で確かめなかった	こと
----	----	-------------------	----

問八	3点	イ
----	----	---

小計38点

2点×5

問一	①	無	視	②	よ	けい	③	招	待	④	お	が	ん	で	⑤	興	味
----	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問二	2点×2	a	イ	b	エ	問三	2点	イ
----	------	---	---	---	---	----	----	---

問四	2点×3	1	ア	2	ウ	3	オ
----	------	---	---	---	---	---	---

問五	3点	イ	問六	3点	ウ
----	----	---	----	----	---

問七	3点	言	葉	が	通	じ	な	い	人	と	笑	っ	た	り	う	な	ず	き	合
問八	2点×2	主	語	ウ	述	語	コ	問九	3点	天	使								

問八	2点×2	主	語	ウ	述	語	コ	問九	3点	天	使
----	------	---	---	---	---	---	---	----	----	---	---

問一	2点×5	放	つ	て	②	オ	か	れ	た	③	確	か	め	④	ジ	ジ	ヨ	ウ	⑤	レ	ン	ソ	ウ
----	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問二	2点×2	1	夏	3	冬	問三	2点×2	A	ウ	B	イ
----	------	---	---	---	---	----	------	---	---	---	---

問四	3点	夜になると灯を目がけて飛んでくるとい	う	習性
----	----	--------------------	---	----

問五	2点	金亀子(こがねむし)	問六	3点	闇	の	深	さ
----	----	------------	----	----	---	---	---	---

問七	3点	雪の深さを自分の目で確かめなかった	こと
----	----	-------------------	----

問八	3点	イ
----	----	---